

令和4年度 はばたき学習（総合的な学習の時間）実践・研究計画

部 員	○菅野 宣衛, 石田 智之, 伊藤 敏幸, 佐々木絵理子, 菅原 恵
-----	------------------------------------

研究テーマ
自ら見いだした課題について、よりよい方法を用いて探究し、自分にとっての答えとしての概念をつくり出していく子どもを育む学び

1 研究テーマについて

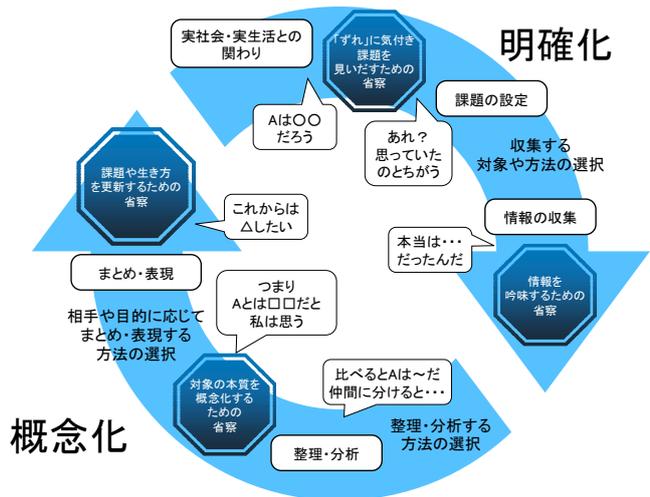
総合的な学習の時間は、探究的な過程を通して概念を形成していく教科である。探究的なスパイラルの中で、“自分にとっての答え”としての概念をつくり直したり、自らの考えや生き方を見つめ直したりするところに教科の本質がある。

こうした教科の本質と昨年度までのI期の実践・研究の結果を踏まえ、はばたき学習における「自律した子どもの姿」を次のように捉えた。

- ① 「人・もの・こと」と関わりながら、予想や理想、思い込みと現実との「ずれ」に気付き、自ら課題を見いだす姿
- ② よりよい方法や視点を用いて探究する中で対象を明確に捉えていく姿
- ③ 対象や解決方法について学んだことを自分の言葉で意味付け、次なる学びに活かす姿

昨年度の実践では、右図に示す対象の「明確化」の過程において、よりよく課題を解決していくための視点を、子どもの言葉で明確かつ具体的につくり上げ、共有化していくことで、協働的な省察の質の向上を図ることができるといふ成果が得られた。しかし、「概念化」の過程において、「創意」「参加」「勤労」「多様性」「共生」といった単元の核となる概念を子ども一人一人が自分の言葉で意味付けるといふ点では課題が残った。

こうした成果と課題、子どもたちが課題を探究していく過程を踏まえ、設定したのが、はばたき学習部の研究テーマ「自ら課題を見いだし、よりよい方法を用いて探究し、自分にとっての答えとしての概念をつくり出していく子ども」である。一般的なありふれた答えではなく、主体的・協働的に探究したからこそ見いだすことのできた“自分にとっての答え”を出し合い、高めていく子どもの姿を目指し、今後の実践に取り組みたい。



図：はばたき学習における自律した学習者の学習過程

2 研究の重点 <○は具体的な取組の例>

自分にとっての答えとしての概念を形成していくための支援の工夫

- 探究的な学習過程の中で見いだした、目的・視点・方法・内容が、「学びのものさし」となるよう子どもの言葉で意味付ける活動を設定し、自覚を促す。
- 探究を進めていく上で用いる視点を共有し、個と協働の省察を往還しながら、学習対象について分かったことを比較・分類したり、ラベリングしたりしていく活動を繰り返し、徐々に概念化していくことができるように学習活動を構成する。その際、単元を通して、概念がどのように更新されたのか、振り返ることができるように学びの足跡を蓄積していくようにする。